

今月の星空

北



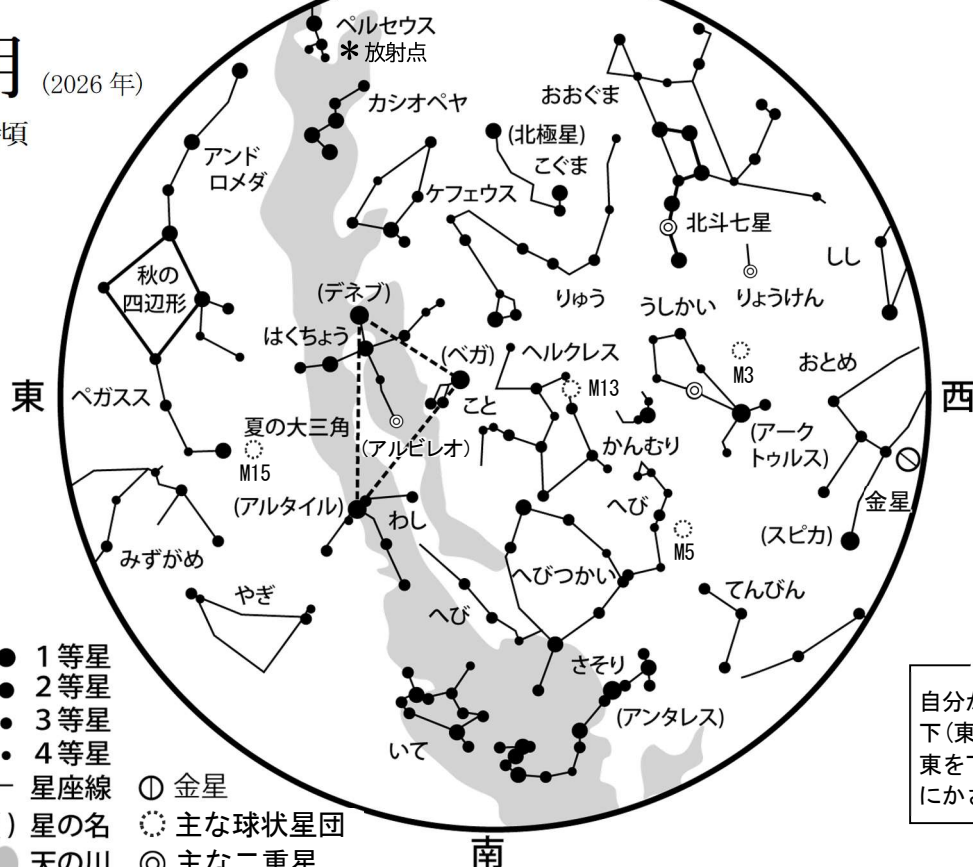
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

8 月 (2026 年)

中旬 20 時頃



— 星図の見方 —
自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ① 下弦 6 日、● 新月 13 日、② 上弦 20 日、○ 満月 28 日

惑星情報 水星 日の出前 東(ふたご座 0→-1 等)※1 日~8 日頃 火星 日の出前 東(おうし→ふたご 1 等)
金星 日の入り後 西(おとめ座 -4→-5 等) 土星 真夜中 東→南東(うお座 1 等)

☆天の川に浸る夏の星座~月明かりのない星空を見よう~

今年の 8 月中旬は、月明かりの影響がほぼない時期とお盆休みが重なり、星空観察の絶好のチャンス。おすすめの期間は、月の出が遅くなる 6 日(下弦: 月の出 22:37)以降、特に 13 日の新月及びその前後 3 日間(10 日~16 日)です。その頃に街明かりの少ない郊外など、空の暗い場所で夜空を見上げれば、天の川が見えるかもしれません。天の川がはっきりわかるほどの真っ暗な場所でない場合は、天の川にかかる目立つ星や星座を目印にして付近に目を凝らしましょう。第 1 の目印は「夏の大三角」です。天の川は、「ベガ(織り姫星)」と「アルタイル(彦星)」の間を通り、はくちょう座の尾「デネブ」と「アルビレオ」を繋ぐ方向に続きます。アルビレオの先、天の川を南へ下ると明るい星の多い第 2 の目印「さそり座」が、その反対側、デネブから北へ向かうと第 3 の目印「カシオペア座」へと繋がります。

下旬には星空とともに月にも注目です。特に 19 日は旧暦 7 月 7 日にあたる「伝統的七夕」。この日の月は半月に近い形で舟のようにも見えます。彦星はその舟に乗り、天の川を渡ったとも言われています。

☆今年は好条件! 三大流星群の一つペルセウス座流星群

毎年多くの流れ星が期待できるペルセウス座流星群が 13 日午前 11 時に極大を迎えます。見頃は①12 日深夜~13 日の明け方、②13 日深夜~14 日の明け方(特に、両日とも夜明け前の午前 3 時台)です。今年は月明かりのない好条件です。ポイントを押さえて観察に臨みましょう。

<その年によらない流星群の基本>

- ・流れ星は放射点を中心にして四方八方、広い範囲に飛ぶ。
- ・放射点が高く昇るほど流星数が多い。※今回の流星群の放射点(星図参照)は、夜のはじめ頃は低く深夜から明け方にかけて高くなる。

<流星数を左右する条件(年毎に異なる)>

- ・極大時刻。極大時刻が夜間に当たれば好条件(今年は昼間)。
- ・月明かりの有無。今年のように極大前後と新月が重なると好条件。

流星群観察のポイント

★事前の場所探し

- ・空を広く見渡せる安全な場所
- ※空が暗い場所ほど良い

★見方

- ・空の広い範囲を見る
- ・暗闇に目をならす(最低 15 分)
- ※街灯等のまぶしい光を避ける

★その他(便利なもの等)

- ・足元を照らす懐中電灯等
- ・横になれるレジャーシート等
- ・虫除けや上着、夜露対策
- ※大声で騒がない等、マナーを守って楽しみましょう